

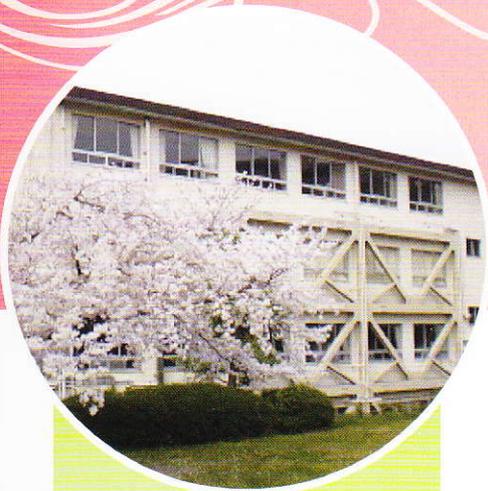
# 総看だより

第5号

愛知県立総合看護専門学校

同窓会会報

2014年8月1日



## 目次

- ◆ 会長挨拶 P.1
- ◆ 学校長挨拶 P.2~3
- ◆ 同窓会総会のお知らせ P.4
- ◆ 卒業生達は、今…  
男性看護師は今…  
退職を迎えて今…
- ◆ 総合看護専門学校の近況

## 会長挨拶

鈴江 智恵

同窓生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催の決定は久しぶりの明るいニュースでした。その一方で国の財源は厳しい状況にあり、医療環境はさらに厳しくなります。

今後、さらに在宅を視野にいたした連携の強化が必要となります。ここで力を発揮するのは、あらゆるステージで全体像を把握できる看護職だと思います。総看同窓会のネットワークの拡がり、皆様が健康で永く社会に貢献できる後押しになれば幸いです。



## 学校長挨拶

村瀬 裕子

同窓会会員の皆様、暑中お見舞い申し上げます。

私は平成23年4月に学校長を拝命し4年目を迎えております。総看では、看護基礎教育と看護職員継続教育の充実に47名の職員が一丸となって日々頑張っています。今年度、第一看護科は第44回生が入学し、また研修センターは開設12年目となりました。皆様の母校は確実に歴史を積み重ねております。



さて、皆様には、平成24年夏に研修センターが実施した「就業状況等に関する調査」への回答にご協力をいただきありがとうございました。3,142名中418名からご回答をいただきました。回収率は13.3%と少し低めでしたが、この調査の結果から、総看の卒業生は8割以上もの

人が看護職として就業しており、また7割近い人が病院で就業していることがわかりました。看護師不足が叫ばれるなか、総看が果たす役割の重要性を再確認することができました。

第一看護科の教育におきましては、学生が自ら主体的に学習に取り組めるようにプロジェクト学習の手法を取り入れたり、看護実践力がより身につくように演習方法を工夫したりしています。今年2月に行った名古屋第二赤十字病院とがんセンター中央病院での1年生の基礎看護学実習第三段階におきまして、初めてプロジェクト学習の手法を取り入れましたが、非常に高い学習効果が得られました。

同窓会の皆様には、今後も引き続き研修センター事業の活用と、身近な方々に第一看護科の受験を勧めていただきますようお願い申し上げます。末筆になりましたが、皆様のご健勝とご活躍を心よりお祈りいたしております。

## 平成26年度同窓会総会ご案内

**日時** 平成26年11月15日(土) 午後1時から

**場所** がんセンター中央病院内国際交流センター 大会議室 名古屋市千種区鹿子殿1-1 ☎(052)762-6111

**講演** 「人生、笑って暮らしたい ～たまごの介護日誌～」 午後2時から

父の喜味こいしは広島で被爆。そして、50歳のときには膀胱癌を患い、人工膀胱をつけ、なお闘病生活を続けながら現役の芸人として活躍。生前、こいしは「私は83歳まで元気にやって来られた。これは、大きな声で喋り、大きな声で笑ってきたから」、「人生、笑って暮らしたい」と語っていた。それを影で支えてきた家族の介護体験をユーモアを交えて語る。

**経歴** 漫才師「喜味こいし」の次女として生まれる。三歳より日本舞踊を始め、藤間流師範、藤間史貴の名で神戸を拠点に活動。浄瑠璃・新内を岡本派「岡本弥八」に師事し、平成七年阪神淡路大震災より、女道楽「喜味家たまご」として大阪に拠点を移す。「浄瑠璃の中でも演奏される機会の少ない新内を語り続けていかなければ」との思いから、師「弥八」と共に啓蒙活動を行う。師の独演会に第1回より参加。本年で28回目を迎える。演目内容は新内代表作「蘭蝶」「あけがらす」「おさん茂兵衛」、段物「関取千両職」笑曲「道中膝栗毛」等々。

古典作品だけにとらわれず創作にも取り組み、平成18年7月「弥八の新内聴いて!25」に於いて新内落語「ぼたんどんろん」を初演。現在は、浄瑠璃「新内」を修行するかたわら、お笑い系浄瑠璃語りとしてライブ演奏などで活躍中。



喜味家 たまご

## 男性看護師は今…

### 第四看護科 第16回生

社会医療法人杏嶺会、上林記念病院兼老健在宅部  
看護部長 **池田 成幸**

私の所属している法人は、あらゆるステージにある方々に対し、医療と福祉サービスを提供することを使命とし、取組みを行っています。

私は、身体慢性期～精神科領域・施設を担当し、平成26年度初夏には、さらなる医療の充実を目指し新館が建ちます。

また、27年夏、重度心身障害児(者)施設の開設に向け準備を行っているところです。

私自身、様々な事業展開の中で経験を積ませてもらい、また、スタッフにも恵まれモチベーション高く日々を送ることができています。



### 第一看護科 第27回生

がんセンター中央病院 感染管理認定看護師  
**土屋 (旧姓：野村) 大樹**

総合看護専門学校卒業後、がんセンター中央病院に就職して今年で14年目になります。12年間の病棟勤務を経て現在は感染管理認定看護師として病院内の感染対策に関する仕事を中心に行っています。認定看護師に求められる業務内容は

大きく大変ですが、看護師をはじめ色々な職員の方と協力しながら日々働いています。今後も仕事と家庭を大切に看護師という職業を続けていきたいと思っています。



### 第一看護科 第37回生 城山病院

**坂下 将太**

急性期病棟で働かせていただいております。

今年度より現所属に配属となり、もうすぐ一年がたとうとしています。役割の違いや雰囲気には戸惑いましたが、先輩・同輩の温かい声かけや指導により少しずつではありますが自分らしく、仕事を行えるようになってつつあります。

精神科の急性症状に対する治療に携わることは知識や技術を求められますが、やりがいも感じており、チームの一員として能力の向上に努めています。



現在三名とも救急ICUで協力し合っています。名古屋第二赤十字病院では今年から男性看護師会（八事DAN）が発足しました。60名近い男性看護師が在籍しており、病棟の枠を超えてさまざまな交流を図っています。

### 第四看護科 第32回生

名古屋第二赤十字病院

**津崎 法一 (写真左)**

私は第四看護科を卒業後、名古屋第二赤十字病院に勤務し12年目を迎えます。急性期看護を極め、よりよい看護を提供したいと日々精進しています。あまりに急性期看護が好きすぎて集中ケア認定看護師の資格を取得しました。現在は、ICUで早期リハビリテーションへの介入に奮闘しています。



配属となり、今は救急ICU・CCUで働いています。精神的にも肉体的にも大変な事が多いですが、回復される患者さんをみると辛い事も忘れられます。専門看護師や認定看護師も多く在籍し、良い影響を受けながら頑張っています。

であり、多忙を極めますが、その中で状態が良くなっていく患者さんにもいい意味で癒され、自己の看護についても振り返ることができます。専門看護師や認定看護師など有資格者も多く、日々、よい刺激を受けながら働いています。

### 第一看護科 第30回生

名古屋第二赤十字病院

**青木 文吾 (写真中央)**

私は名古屋第二赤十字病院で働き始めて12年目になりました。最初はSCUに

### 第一看護科 第31回生

名古屋第二赤十字病院

**船津 昌弘 (写真右)**

私は現在、救急ICU・CCUにて10年目を迎える中堅看護師です。急性期の病棟

# 卒業生達は、今…

## 退職を迎えて今…

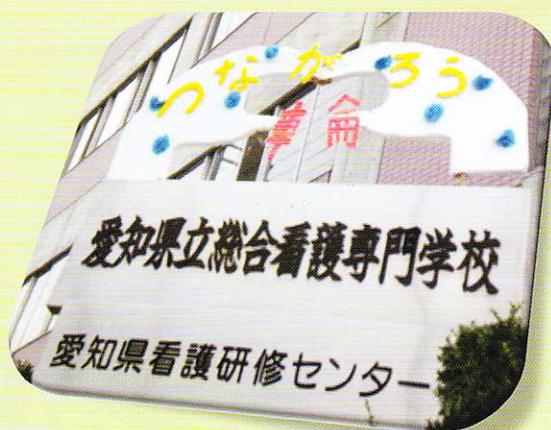
臨床看護学第一科 第1回生  
山本 晃子



昭和49年に入学し、クラスメートは19名でしたが仲の良いクラスでした。実習のほとんどが、がんセンター中央病院でしたので、自然にそのまま就職しました。

結婚、流産、出産、子供の入院など何度か退職しようと思った時期もありましたが、その都度、周囲の人や師長に支えていただき昨年度退職まで仕事を続けることができました。現在は、再任用職員として同病院で人事・労務を担当として職場環境の改善に努めています。

## 学校祭「卒業生による相談コーナー」



平成26年度学校祭は、11月1日(土)に開催予定です。

ご家族揃って是非、御越し下さい。

医療安全「輸液ポンプ」校内実習



臨床看護方法論「皮下注射」校内実習



リニューアルした第一看護実習室



## 総合看護専門学校の近況

平成26年2月の入学試験の一般入学試験受験者数は383人、競争率は2.1倍でした。平成26年度の新入生（第一看護科第44回生）は121人でそのうち男子学生は14人、社会人経験者は26人でした。

5月のスポーツ大会では、クラスの団結力を発揮し、1年生Cクラスが優勝をしました。6月には、1年生が初めての実習（基礎看護学実習第一段階）を名古屋第二赤十字病院で行いました。

今年度から、創立以来総看学生の実習の象徴であったナースキャップが廃止になりました。ナースキャップを付けていない学生のユニフォーム姿に新鮮さを感じます。我が校伝統の戴帽式は、例年通り秋に、ナイチンゲール像から看護の灯をいただきながら行う予定になっています。

2年生第43回生は、6月～7月に老人保健施設の実習に臨みました。この学年から基礎看護学実習第三段階（平成26年3月）に、プロジェクト学習を導入しました。受持ちの期間は短かったのですが、各々、自分の課題に向かい、主体的に学習を進めました。

3年生第42回生は、実習の連続ですが、ケーススタディをまとめることで自分の実践し

た看護を見つめ、来年看護師として働く自分の姿を模索しながら、第104回看護師国家試験の合格を目指しがんでいます。春には愛知県各地に、同窓会会員の皆様の後輩看護師として羽ばたいていきます。全学生数359名の大所帯ですが、行事を通して学年を越えた交流のもと、楽しい学生生活を送っています。

当校は、県民の皆様の支援を受けつつ、授業料9,900円/月で総合看護専門学校の理念のもと質の高い看護師の育成に努力しています。

校舎も耐震工事を終え、また、平成25年度より2期に分けて第一看護実習室をリニューアルし、設備の充実を図っております。

また、研修センターでは、再就業を希望する看護職者の方たちの職場復帰を支援するために、「看護職カムバック研修」を行っています。例えば「子育てが一段落したから復帰したい！でも、今の医療現場で働けるのか不安」「看護の仕事からしばらく離れてしまったから、看護技術に自信がない」と復帰をためらってしまう方々をサポートする「看護職カムバック研修」などをおこなっています。

### 総合看護専門学校のホームページアドレス

<http://www.pref.aichi.jp/imukokuho/sogo-kango/>

### 編集後記

投稿して頂いた卒業生の皆様、学校の先生方はじめ在校生の方々のご協力により、会報第5号を会員の皆様にお届けすることができました。

今後も様々な場所で活躍している卒業生の近況をお伝えしていきたいと思っております。

ご協力頂いた皆様、本当にありがとうございました。

編集委員：鈴江智恵、岡田厚子、長尾佳世子、山中賢治、林鶴子、黒木留美子、田邊美穂